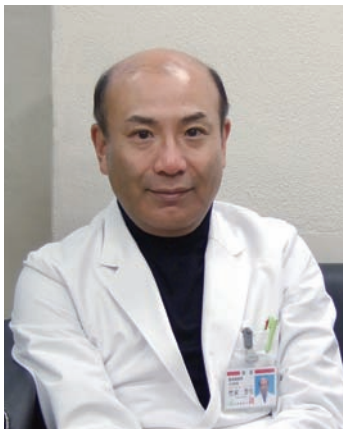


# 抗菌薬選択に積極介入を

## 抗菌化学療法認定薬剤師

## の仕事とは

日本化学療法学会は2008年に「抗菌化学療法認定薬剤師」制度を発足させた。抗菌化学療法に精通したスペシャリストの薬剤師を育成するのが狙いだ。薬剤師はこれまで、薬物血中濃度モニタリング(TDM)のデータをもとに、抗菌薬の適切な投与量や投与のタイミングなどを医師に助言するなど、抗菌化学療法を支援する役割を担ってきた。さらに一歩踏み込んで、一緒に治療する立場から、「感染症の種類や病態に応じてどの抗菌薬を選択し、どう使ったらいいのか」にまで介入してほしいとの期待が、この制度に込められている。制度の概要について、同学会抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会の竹末芳生委員長(兵庫医科大学感染制御学教授)に聞いた。



日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会委員長

### 竹末 芳生氏に聞く

同制度は10年3月に第1回目の認定が行われ、136人の認定者が誕生した。11年3月には74人が認定を受けた。12年初頭に実施される3回目の認定試験の受験者は104人。例年通りの合格率であれば12年3月には認定者が合計約300人前後に達する見通しだ。この制度は、教授や部長などへの救済処置としての暫定認定はなく、「試験に合格した者」だけが認定される。

主な認定要件は、▽抗菌化学療法に5年以上関わっていること▽申請時に日本化学療法学会の正会員であること▽医療機関において感染症患者の治療に自ら参加した25例以上の症例を報告できること▽指定の研修プログラムなどにおいて60単位を取得すること▽認定試験に合格すること——となっている。

日本病院薬剤師会の感染制御専門・認定薬

剤師制度は、手洗いなど感染制御に関する幅広い領域を対象にしているのに対し、日本化学療法学会の認定制度は、抗菌化学療法に特化したスペシャリストの薬剤師を育成するのが目的だ。

抗菌化学療法認定薬剤師に望まれる役割について竹末氏は、「積極的に臨床現場に出ていって医師の信頼を得て、対等に話をしながら、病院全体の抗菌薬適正使用推進の力となってほしい。受け身的な存在から、能動的な存在になってほしい」と期待を込める。

これまで抗菌薬領域において薬剤師は、主に薬物血中濃度を解析し、抗菌薬の最適な投与設計を医師に提示する役割を担ってきた。抗菌薬の血中濃度が、副作用の出現しない範囲内に収まるようにコントロールする役割だ。今後はそれだけでなく、「さらに一歩踏み込んだ抗菌薬治療への関わりを行ってほしい」と強調する。

例えば、特定の抗菌薬について医師が使用する前に、感染制御チーム(ICT)の許可を必要とする体制を敷く病院は少なくない。「許可しない場合にどの抗菌薬を使えばいい

のか、薬剤師が提案したり、同じ抗菌薬が長く投与されている場合に、その中止や他の抗菌薬への変更を提案する。そういった関わりを普通に実践できるようになってもらいたい」という。

### “攻めのTDM”実践を

TDMにおいても、「これまでではどちらかといえば、副作用の発現防止を目的にした“守りのTDM”が多かった。抗菌薬の有効性を高めることを目指した“攻めのTDM”を実践する上でも、抗菌化学療法認定薬剤師は必要になる」と竹末氏は語る。

臨床現場で医師の感染症治療に積極的に介入していくためには、肺炎や心内膜炎、腹腔内感染症など感染症自体のことをよく知っておく必要がある。日本化学療法学会が年に2回実施する抗菌化学療法認定薬剤師講習会には、各感染症の病態や抗菌薬の選択などを医師が解説する講演が組み込まれている。さらに実際の症例を題材に、どのように治療を進めていくべきか、参加者が小グループに分かれてディスカッションを行っており、毎回会場のあちこちで熱い討論が展開されている。

今後は、認定を受けた薬剤師が抗菌化学療法分野の専従者となって院内全体を管理し、患者のベッドサイドに頻りに足を運ぶような体制作りが望まれる。

「感染症は日々が勝負。1週間に1度患者さんを見に行くだけでは対応できない。数日投与して、効果がなかったら別の抗菌薬に変えるなど、患者さんの病態に合わせた迅速な対応が求められる」

一般の病院では、医師が感染制御、抗菌化学療法分野の専従者となって関わることは難しい。そこで、「抗菌化学療法認定薬剤師が毎日、午後だけでも院内の各病棟を回る。毎日が難しいなら2日に1回は病棟を回って、患者さんの容態をチェックし、必要に応じて専門医と相談して対処する体制を、各病院で構築できればいい」と竹末氏は言う。

薬剤師の関与が必要な領域としては特に、術後感染症が挙げられる。「病院の3分の2の感染症は術後に起きている。外科医は抗菌薬治療に関する思い入れが比較的低く、逆にカルバペネムなどの抗菌薬乱用を起こしやすい。そこにかかろうまく入り込んで、支援していくかがポイントになる」と語る。

# 調剤&ドラッグ

**調剤とOTC、共に精通した薬剤師育成に尽力**  
医療費抑制の動きの中、セルフメディケーションの流れが高まっています。次世代のスタンダードに対応できるような、薬剤師育成に力を入れています。

**月間千枚以上処方箋応需店舗数 ドラッグ業界1位**  
患者様の立場に立った丁寧なアドバイスを徹底、地域の「かかりつけ薬局」をめざしています。

**対総売上高調剤報酬比率ドラッグ業界 No.1**

セガミ薬局 | ドラッグセガミ | パワードラッグワンズ  
【創業】昭和12年2月 【資本金】9,500万円 【売上高】1,215億23百万円(10年3月期) 【従業員数】社員数1,813名



地域社会で信頼される薬剤師を目指して成長を実感しています!

詳しくは下記URLをご覧ください。  
<http://www.segami.co.jp/>



**セガミメディクス株式会社**  
大阪市中央区南船場2丁目7-30

フリーダイヤル:0120-999-041  
E-mail:y-manako@segami.co.jp